

第2回川越町総合計画審議会 概要

1. 委嘱状交付

総合計画審議会委員14名出席。町長より委員2名に委嘱状を交付（1名欠席）

2. 町長あいさつ（要旨）

町長として二期目に入り、町政を停滞させることなく、着実に進めていく強い意志をもって、4年間のスタートとなる令和2年度の予算を3月議会に上程させていただく。本審議会に諮問させていただいた第7次川越町総合計画が、これからのまちづくりの方針であり、指針となる。子どもたちが大人になったとき、活気があり、誰もが安全・安心に暮らせ、住み良さを実感できるまちを目指して、まちづくりを進めていくので、第7次川越町総合計画の策定に向け、引き続き、貴重なご意見を賜りますようお願い申し上げます。

3. 各委員自己紹介

各委員、事務局等自己紹介

4. 議事

1) 人口推計について

Q：総合計画を策定する上で、目標人口は、軸となるもの。現行計画でも、目標人口15,000人を目標よりも早く達成している。一つの指針として、この指針に沿って進めればいいのかと思う。

Q：コーホート要因法で推計すると、このような結果となるが、全国的に人口が減少している状況もあり、ある程度慎重に考える必要もあり、推計通りの16,300人でいいかと思うが。

A：現行計画の目標人口は、15,000人で、現在人口が、約15,150人であり、予想よりすでに150人超えている。推計値と目標値の200人の差が少ないか、多いか、の議論はあるが、計画であることから、上に目標を置いた方がいいと考えている。

A：全国的な傾向として人口減少が進んでいる中でも、全国どこでも一律に、同じように人口が減っているわけではなく、人口がすごい勢いで減っていくところもあれば、そうでないところもあり、川越町はしばらく増加していく推計となっている。その特徴を活かして、少しでも人口が増えるよう、今の機会に様々な施策、事業を行っていくという気持ちの現れではないかと思う。

Q：人口が増加する地域とこれまで通り人口が減少する地域があるので、そのバランスを考えつつ、もう少し慎重に推計していく必要がある。今まで人口が増えてきた要因として、スーパーが立地したことが挙げられるが、今後も伸びていく大きなインパクト、宅地開発等があるならいいと思うが。

A：雇用を生み出す新たな企業を誘致できるかについては、土地的に難しいと考えている。コーホート要因法に関してもこの推計通りになるかは、判断は、難しいので、そのあたりも加味しながら目標設定を行う必要がある。一方で、川越町での施策として、健康増進や子育てしやすいまちということ掲げているので、若い世帯の流入によって子どもが増える

ことを目指していきたい。

Q：事務局の提案で問題ないかと思う。施策を検討していくためには、人口構造の年齢別の割合、変化に着目し、そこの議論が重要かと思う。

Q：合計特殊出生率を見ても若干低下で推移しており、違和感はなく、大きく変わる要因として、転入転出がどうなるか。死亡者数を見ても、長寿化の方向にある。若者の流出に歯止めをかけるためには、例えば交通インフラで四日市ジャンクションが整備されて、この地域の利便性が高まることも一つで、将来的な不確実な予想できないこともあり得るので、想定しながら一定の目標を持ってやっていく必要がある。

町内の自動車学校が若者向けに YouTube など動画を編集できるスタジオを場貸しするなど、民間企業が時代の変化に対応する創意工夫をすることで川越町の魅力を捻出しようとしている。人口の目標も少し高めに設定し、目標があることで、意欲にも繋がる。目標に対して施策等をどのように行っていくのかを考えていくことで、まちの発展につながるのではないか。事務局案の 16,500 人で違和感はない。

2) 住民意識調査の結果について

Q：満足度が上がっても重要度が上がるというのはどう解釈をすればいいか。そもそも、どのように評価しているのか。

A：57項目の設問があり、一つの項目に対して、それぞれ満足度を5段階で、今後のまちづくりに重要かどうかを5段階で、それぞれ評価していただき数値化して取りまとめたものである。

Q：資料2-1で、例えば、公共交通で、現状値の2009年が20.4、目標値が40に対して、未達成低下と書いてあり、22.5とほとんど満足度があがっていない。どのようにして、目標値を決めているのか。

A：2009年と2014年がアンケートの結果である。前期2020年当初目標は、10年間の計画を策定した時に、目標値を40に設定した。その5年後の後期計画策定時に再度、設定した目標値である。

Q：現在策定に向けて議論している計画ではなく、現行計画の目標値ということか。

A：これは、現在検討している計画の目標値ではなく、現行計画での目標値である。結果として、かなり高い目標を掲げた形であった。

Q：目標値の設定は最後に設定するのか？

A：基本施策や総合計画の中身になる所を考えていくときに一緒に目標値も決めていく。

Q：その時に、現行計画のこともあるので、数値を慎重に設定していく方が良いのではないかと、というご意見。全般的にハード面の項目の重要度が上がって、ソフト面の重要度が下がっている印象を受けた。特に、協働のまちづくりや住民活動といった項目が下がっているところが一番気になる。

Q：防災訓練に参加するか」に対し、「しない」ということで意識が低い。回答者の内訳が生まれも育ちも川越町である人が少なく、転入した人が多いということではないかと思う。地域の防災や地域のことについて、参加率が高いのは、生まれも育ちも川越町、という人が

多い印象。アンケート回答者も転入してきた人が64%であり、元々住んでいた人が36%となっているから、同じ川越町の住民ではあるが、仕方ない結果だと思う。

住みやすいところでは「公共交通が充実している」という意見もあれば、移転したい理由で「公共交通が不便だから移転したい」という両極端の意見もある。このアンケート結果をそこまで大きく取り上げる必要はないのではないかとも思う。昔からの住民の回答が少なかったということで、それらを踏まえて、今の川越町の現状はこのあたりにあるのではないかと思う。

Q：人の出入りが激しいのが今の川越町の特徴で、人口が微増している。そういったことから、自分の意識や考え方が変化していることのひとつの例だと感じた。

Q：地区を良くしていく活動への今後の参加意向という設問で、参加するつもりはないという意見がかなり多い。将来のイメージ、子ども、高齢者、障がい者、誰もが暮らしやすい、人にやさしいまちという両極端なイメージ像と、現状をどのようにバランスをとって近づけていくのか。

A：地区を良くしていくための活動への参加状況という設問で、参加していない人が高くなっている。防災の活動や地域活動に興味を持たれている方もいる。地区でのイベント等を通じて、地域活動に参加してもらうよう声掛けをしていただいている。行政だけでできることではないので、地区の方とも協力していく必要がある。災害や高齢者福祉の分野において、住民同士の助け合いは必要であるので、そのあたりも次期総合計画にも入れていきたい。

Q：ある程度の人数がいると、賛成2割、どちらでもない6割、反対2割。アンケートを気楽に書いて、資料2-1も同じような数値になっている。目標の設定で、アウトカム指標とアウトプット指標があるが、アウトカム指標で差が出る結果がでるかどうか。施策に対するの評価であれば、アウトプット指標の方がいいと思うが、努力に対する結果がついてくる気がする。

A：第7次川越町総合計画を策定していく中で、目標値の持ち方を住民満足度で評価すると、どちらでもよいという部分がゼロですので、数値的には上がらない。目標値の持ち方をどうするかになってくる。

3) 川越町の現状分析と今後のまちづくりの主要課題について

Q：資料4のV.1にあるデマンドタクシーとはどういう意味か。また、V.5にあるRPAやAI、自治体クラウドなどひとつの文章に分からない単語が並んでいて文章が理解できないので、わかりやすい言葉で教えていただきたい。V.4にある「中央公民館、あいあいセンターの老朽化が進んでいるため、中期長期計画に基づき施設の改修、機能の複合化の検討が必要。」とあるが、これは長い間言われていることでいつ改修するのか。中学校の改修を先にするなどの話があったり、子育て世代には関心が高い事柄。この中長期計画がどうなっているのか教えていただきたい。

A：デマンドタクシーについてはタクシーとあまり変わらないが、自治体が費用の一部を補助する。タクシーは自宅から目的地までの移動に対して、デマンドタクシーは自宅から町で

決められた拠点までの移動手段。そこからはふれあいバスなど他の交通手段で移動するものである。

RPAは、パソコンなどの途中の作業を自動化するシステムのことで、例えば、ふるさと納税の入力作業など今まで人がやっていた作業の一部を自動化するものである。自治体クラウドは、現在、各町がそれぞれサーバーやシステム等の機器を調達し、運用しているので、それぞれ経費が発生している。国の方針でもあるが、同じ機器、同じシステムを共有して使うことにより、経費を抑え、効率化を図るもの。

公共施設が老朽化していることは事実であるが、中学校をやるか、あるいは、複合施設をやるのかは、私から言えることではないが、現在、施設ごとに調査をして、今後の計画の策定を進めており、その計画の優先度に沿って事業を検討していく段階である。その結果を踏まえ、町、議会などで、どこから進めていくかを判断することとなる。

Q：Ⅲ. 社会経済動向の整理（求められる対応）について、非常に大きな課題と思うが、川越町が行うべきことが書かれていない。問題を抽出して、求められる対応に対して川越町がどうしていくのか。川越町の規模でこれら全てに対応するのは難しいと思うが、あえてしているのか。

A：Ⅲにつきましては、日本全国の話であって川越町だけの話ではない。インバウンドの拡大など国全体の社会経済動向について書いてあるもので、川越町独自で対応する、ということではない。

Q：全国の動きに対して川越町に求められる対応というのが矢印の部分ではないのか、それとも一般的な話なのか。

A：川越町の直接的な課題ではないが、Ⅲを踏まえて、意識して川越町の総合計画をつくっていくという位置づけになる。

Q：全国的な社会動向と実際の川越町で、どれとどれがリンクするのか、求められる対応の中で、川越町とあまりリンクしない気もする。川越町の実情に合わせた課題整理にしたほうがわかりやすいと思うが。

A：グローバル競争の激化など、直接、川越町には関係がないこともあるが、RPAやAIなど取り組むべきこともある。すべてを計画に反映させていくことではないが、社会動向を示す資料と考えていただきたい。

Q：資料に「川越町を取り巻く社会経済動向の整理より」、と赤く書いてあるので、川越町のことだと思ってしまう。「日本を取り巻く」に変える必要がある。Ⅲ. ⑥に町の魅力発掘・発信とあるのでこれも勘違いされる恐れがある。

Q：Ⅰ. ③に生活系ごみ排出量は、県平均よりかなり低いとあるが、暮らしの満足度の資料、前回26年度調査より満足度が低くなっている。これはどのような状況が考えられるか。

A：ごみの排出量については、県内の下から2番目に川越町となっている。個人的な意見だが、満足度が下がっている理由は、一般ごみと埋め立てゴミを一緒に捨てる四日市方式の影響があるのではないかと考えている。地区懇談会などでも意見をいただいております、個別に聞いたことではないが、不満に思っているのではないかと思います。

Q：四日市市は指定の袋ではなく、スーパーの袋でもごみを捨てることができる。絶対に指定

の袋でないといけないという縛りも満足度に表れているのではないかと。不法投棄の増加にも繋がっているのでは。昔、川越町ではごみ袋に名前を書いて出さなければならない時期もあった。

A：指定ごみ袋を始めた時に、自分のごみに責任を持つように名前を書くシステムだったが、プライバシーの問題で1年ぐらいでなくなった。満足度も下がるかもしれないが、指定ごみ袋によって分別が進められる。スーパーの袋だと金物類を入れる可能性もある。ごみ出し時の袋が自由になると、楽かもしれないが、分別の徹底にはならないと考えている。満足度は下がるかもしれないが、やむを得ない。

Q：四日市市は一緒にごみを出すことができるからごみの量が多い。住民が出したい方法で出せることが一番ありがたいが、今の川越町のやり方、ルール化されているからごみを減らすことができている。

Q：たとえ満足度が下がっても、本来やるべきことはきちんとやる必要があることかと思う。

Q：図書館機能が弱いというところがあり、蔵書数が少ないとあるが、どういう蔵書が欲しいかなど、ニーズを把握しているのか。

A：図書室では、予算の範囲内で購入希望図書のアンケートなどを行っている。スペースが狭く、蔵書数は多くないが、閉架図書にも図書等が置いてある。児童用図書を充実させる方針であるので、大人向けは十分でないかもしれない。近隣の図書館と連携するシステムになっているので、取り寄せることは可能である。

Q：2月にUD研修に通っていた。川越町の今後のまちづくりには、このUDという言葉が出てこない。三重県でもUDを推進していると広告で見た。

※UD…ユニバーサルデザイン

A：現状、町として具体的な取り組みはないが、今後、施設の老朽化に対応していく過程で、一番大事な視点になってくる。庁舎の設計にもUDの考え方は入っている。視点として必要なもので、今後計画の中にも入れていく必要があると考えている。

Q：今後10年の計画となると、一番大事な視点である。

Q：Vについて、評価と書いてあるが、成果があつて課題があつたはず。すべて必要と書いてあるということは、第7次総合計画にこの項目をすべて入れていくということか。

A：今後の課題として挙がってきたものは当然ながら第7次総合計画に反映していく必要があると考えている。

Q：例えば、V.3「障害者の就労を目的とした農福連携事業を検討しており、その実現に向けて取組が必要」と書いてあるが、第7次ではもう少し具体的に行っていくということか。

A：現行計画でもその文言は用いているし、現在、JAの場所を借りて、試行栽培を行っている。来年度については、予算可決前であるが、関連経費を計上しており、それらの状況も踏まえてどうしていくかを判断することとなる。

Q：Vの第6次から出た課題は主要課題に盛り込まれている、ということでよいか。人口について周辺市町とのデータの比較で、外国人の割合が高いとあるが、人口の資料に詳細な記載がない。Iについても外国人の人口について触れられていない。

A：参考資料2の14ページで、都市間比較として、外国人の項目があり、他市町と比べて割合

が高いというところ。人口推計の段階では、留学生、実習生の方が多いのでそこまで外国人を加味してはいない。推計人口の中には入っているが、外国人のみで、増えるかどうかの検討はしていない。

Q：今の外国人のデータは一時的、特異的なデータであるから継続的に川越町にいるかという
とそうでもないからというか。

Q：15 ページのグラフを見ると、川越町が県内でもダントツで犯罪認知件数が高くなっている
が、この要因はなにか。

A：人口が少ないので、1件増えれば割合が上がるということもあるが、警察の話では、大きな幹線道路があり、交通利便性が高い反面、何か犯罪をした時に逃げやすい環境にあると聞いている。傾向としては、主に空き巣や車上狙いが多い。

A：川越富洲原駅における自転車の窃盗も多いと聞いている。

会長

予定の時間もあり、他に意見もないようなので、本日の議事は終了する。

5. その他

次回第3回の審議会では、基本構想案と施策体系などの骨子の審議を予定している。開催予定は来年4月下旬頃を予定している。